

「歯科金属アレルギー」って何だろう？

当医院では、被せ物治療についてのご相談を受ける機会が増えました。一昔前までは、詰め物や被せ物は銀の金属でできた保険治療が主流でしたが、より美しさを求める人々のニーズの変化により、最近では白い歯を希望される方も増えてきました。

また、その他に、金属アレルギーをお持ちの方のお悩み、ご相談にも対応しております。口腔内の銀歯が原因になっているケースも稀にあります。そのような患者様にはメタルフリー治療といって、金属を用いない詰め物、被せ物の治療を行っております。

〈歯科金属アレルギーの主な症状〉

- ・全身の様々な部位の皮膚にアトピーのような赤みが出る
- ・お口の中の金属がイオン化し、皮膚や粘膜から体内に取り込まれ、舌や頬が赤くなったり、口唇炎が出来たりする

これらの症状は、身体の免疫変化に伴い発症することがあります。



〈歯科金属アレルギーが疑われる場合〉

歯科金属アレルギーが疑われる場合、歯科口腔外科や皮膚科にて“パッチテスト”を行います。

“パッチテスト”とは、試薬のついたテープを背中に貼り、除去後、皮膚に現れた反応に基づいてアレルギーの有無を判断するものです。



図9 パッチテスト貼付時

今後被せ物を入れる予定で不安のある方は、金属を用いない被せ物の取り扱いがございますので、お気軽にご相談ください。

「歯ぐきのマッサージ」について

当院では被せ物を入れた際、「歯ぐきのマッサージ」を約2週間行っていただいております。その理由としては、被せ物と歯ぐきのなじみを良くするためです。ここに隙間が生じると、汚れがたまり、再度むし歯や歯周病の原因になりかねないからです。

治療後もご自身の歯を守っていくために出来る予防の1つです。

★マッサージの行い方★

指2本で歯ぐきをはさみ、歯ぐきから被せ物の方向につまむようにマッサージします。10～15回を1セットとして、歯磨きをした後に行ってください。



Sato Tadayuki Sato Souta Sato Keiko Kozaki Michiyo Tominaga Yuuko
Ogawa Rumiko Imaiida Shizuka Igushi Saori Takahashi Yoshie Sato Dental

みのり新聞

Naito Mizuki Tobaru Nanaka Ito Rina Fukuda Moeri Kozaki Michiyo
Tominaga Yuuko Sato Dental Clinic Sato Tadayuki Sato Souta Sato Keiko

食べる幸せ

みのり会

さとう歯科医院

発行人 佐藤 聡太

〒481-0006

北名古屋市熊之庄小島159

ムシバ ナクナル

0120-648-797

北名古屋 さとう歯科 検索

シリーズ1 被せもの最前線

みなさんが被せもの、と聞いて浮かぶイメージはどんなものでしょう。

銀歯って純粋な銀だけを使ったもの？白いものって何でできているんだっけ？

何年、何十年と使うものなのに、なんとなくしか分からない…しかしそれは、改めてちゃんとした説明を聞く機会が少ないからではないでしょうか。

金や銀、パラジウムといった合金に代表される歯科用金属。これらは歴史も古く、今も保険適応になっている面や、加工のしやすさ、強度の面から、被せものとして現在も一般的に用いられます。しかし一方で見た目の問題やレアメタルの世界的な供給不足、また近年増加する歯科金属アレルギーなどの理由から、新しい材料が開発されてきました。

「セラミック」と呼ばれる陶材は、まるで天然の歯のような白さと艶を出せるのが特徴です。歯科用に強度を高めた「レジン」と呼ばれる樹脂素材は、加工しやすく、安価なのが利点。また近年では、人工ダイヤモンドの素材としても用いる「ジルコニア」が出てきて、高い強度と美しさから広く用いられつつあります。

これらの素材にはどれも一長一短があり、複数の素材を組み合わせることで、それぞれの弱点を補うような被せものも開発されています。

安心、安全といった治療への要望が高まる昨今。生体親和性の高いセラミックやジルコニアは、より天然に近い満足感を味わって頂けると日々実感しています。

歯の治療に既製品はありません。一人ひとり歯並びや噛み方のクセが違うため、ほぼすべての被せものがオーダーメイドになります。

長い付き合いになる被せもの。その素材にもこだわってみませんか。

被せもので健康寿命が延びる？

実際に治療後の患者さまから、よく噛めることで胃腸の調子が改善した、歩く際や飲み込む時の踏ん張る力が増したといったお声を頂きます。よりフィットし、自分の噛み合わせに合った被せものを使うことで、全身にも良い影響が出るようです。

いまや超高齢社会の日本。平均寿命が延びる一方で、自立して生活できる「健康寿命」との差は約10年のままと縮まっていません。自分のお口に興味を持ち、丁寧にお手入れを続けることが、結果として健康寿命の延伸に繋がります。